

# 生存科学研究ニュース

VOL. 11. NO. 3

1996. 5. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

## 第6回「生存科学基礎論」研究会 生存における人間の責任

平成8年4月18日(木)午後3時半より生存科学研究所会議室において表記の研究会が開催され、上智大学教授青木 清氏が「生命科学と生存科学」と題して発表を行い、次いでそれを話題に質疑応答が行われた。要旨は以下の通り。

まず動物行動学の立場から自然環境に対する人間の責任の本質と根拠について考察してみる。

人間と動物、それも霊長類との連続性と不連続性について考えるとき、二つの間に見られる脳容積や行動の差は単なる量的なことなのか、それとも質的なことなのか、というのがいつも問題にされる。私は両者の本質的な相違を述べることは意義があるという認識をもつこと、また人間が動物とは異なる独自の存在であるという認識をもつこと、このようなことは単なる自己満足であって、避けるべきことなのかという、自問にぶつかる。動物行動学の面から、あえて人間の独自性についての例をあげてみると、

1. ヒトの進化において、脳の容積と構造の拡張は、ヒトに動物とは桁違いの記憶を可能とさせ、また自分の行動が未来にどのような影響

を与えるか予測することを可能とさせている。

2. 脳の進化に伴って現れたと考えられる行動、道具製作、動物の狩猟による肉食や協力行動など、この行動の芽生えは野性チンパンジーにも見ることができるが、他の霊長類には全く見ることはできない。

3. 脳容積のギャップ同様に行動のレパートリーにおいても、人間と類人猿の間には大きなギャップがある。それは恒常的な食物の分配、自己認知、シンボルを用いたコミュニケーションなどである。

これらの両者の差には不明な点はあるが、人間の環境への適応の方法において、動物と異なる最大の点は、遺伝子の突然変異と自然淘汰によっているのではなくて、文明によっていることである。文明は初期人類の石器使用や火の使用によって始まったのではないかと思われている。

人間が他の動物とは本質的に違う独自性を持っているということは、生物界と、それを支える自然の保存に関する人間の責任を正しく認識していることを示す。人間と動物との質的な違いを主張することは、人間にとっての独自の新しい負担、それは地球とそこに生息する生物をいかに存続さ

せるかという新課題を負わせることである。自分の独自性を認識することは、環境に対する自分の責任と義務を認識するためには避けられないことである。

平成7年度第2回評議員会ならびに  
第4回理事会

平成8年3月8日(金)午後2時より、生存科学研究会会議室において表記の会議が開催された。会議は評議員会と理事会とが同席して開催され、議題の説明の後それぞれについて討議を行い、それぞれに採択ならびに議決を行った。

冒頭、中尾理事長代行より開会の挨拶に続き、理事長代行就任当初から次の世代に後を託せる体制を早期に作って辞任したいと表明してきたが、そしてこれは先の常務理事会でも発言したことであるが、今回自治医科大学学長を退任することが正式に決まり、また研究所も平成7年度から板垣先生の指導での研究体制が生まれ、それができる準備が整ってきたので、任期途中ではあるが理事長代行と理事の任を辞退したいとの申し出があった。それに続き、小平専務理事からも、これまでの研究所の研究に一段落をつけ、新たな研究体制に進むことを期待して辞任をしたいとの申し出があり、同様の主旨が青木、中山両常務理事からも発言された。これについては、評議員会・理事会とも、申し出者の意志を尊重して受け入れるが、5月に行われる予定の平成7年度事業報告と決算のための評議員会・理事会が済むまで留任することが求められた。

今回の会議の主要議題は平成8年度事業計画案・収支予算案の審議と特定公益増進法人認可(継続)申請についてであった。これらは極端な

低金利のための厳しい財政状況下での制約されたものではあるが、理事会、評議員会、さらに公益信託武見記念生存科学研究基金の3つが協力して強力な研究体制を進めるという計画のもので、いずれも審議の上、原案通り了承ならびに議決された。

公益信託武見記念生存科学研究基金  
運営委員会

3月25日(月)午後2時より、中央区日本橋三井信託銀行信託部において表記の会議が行われ、板垣運営委員長、運営委員の他信託管理人の三藤氏も列席して平成8年度の事業計画、収支予算案が審議された。なお運営委員は3月末で2年間の任期を終了するので、来期のあり方を含め、各種議論があったが、結論は先送りにされ、その後の経過をふまえて、4月からは新しい運営委員会が誕生する予定。

研究所日報

- 3月11日(月) 21世紀の産業活動のあり方研究会
- 4月18日(木) 小平専務他、肝属郡医師会会長、  
医師会病院院長と会談
- 4月19日(金) 小平専務他、熊本にて行われた川崎病研究会に出席